



平成29年度 全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成29年4月18日（火）に、3年生を対象として、「教科（国語、数学）に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

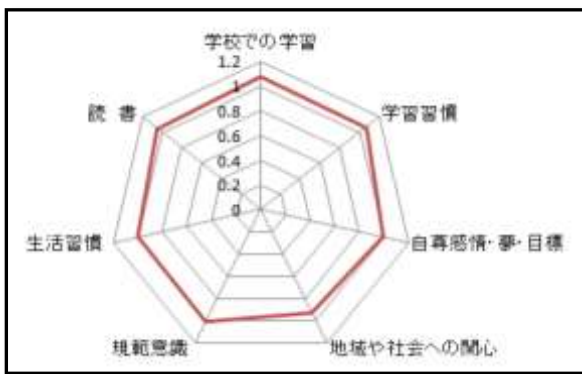
この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 教科に関する調査結果の概要

教科・区分	学力調査の分析(傾向や特徴)	全国平均正答率との比較
国語A	<ul style="list-style-type: none"> 全体的には、全ての設問の正答率で全国平均を上回っている。 「話す・聞く」の基本的な問題は良く出来ている。しかし、日頃使わない語句や慣用句の問題の正答率が低い。 話の展開を踏まえて、一つ一つの叙述の意味をとらえ、内容を理解することに一部課題がある。 	上回っている
国語B	<ul style="list-style-type: none"> 全体的には、全ての設問の正答率で全国平均を上回っている。 登場人物の描写に注意して読んだり、言動の意味を考えながら読んだりすることはよくできている。 根拠を明確にし、自分の考えを具体的に書くことに課題がある。 	上回っている
数学A	<ul style="list-style-type: none"> 全体的には、全ての設問の正答率で全国平均を上回っている。 基礎的、基本的な知識・技能において、概ね身に付いている。 関数の意味の理解、扇形の弧の長さを求めること、範囲の意味の理解に課題がある。 	上回っている
数学B	<ul style="list-style-type: none"> 全体的には、全ての設問の正答率で全国平均を上回っている。 与えられた表やグラフまたは資料から、必要な情報を適切に読み取ることはよくできている。 事象を数学的に解釈し、問題解決の方法、判断の理由を数学的に説明することに課題がある。 	上回っている

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ゲーム等の接触時間が1時間以内57%、テレビ等の視聴時間が1時間以内25%等、基本的な生活習慣は、全国平均と比較してよい傾向にある。 「学校に行くのは楽しい」や「友達の話最後まで聞き、友達の考えを受け止め自分の考えを持つことができる」生徒が増加している。 将来の夢や希望をもっている生徒は全国を若干下回っている。夢を実現させるために具体的な目標設定を行い、行動に結び付けさせることが必要である。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組（全校で・学年で・学級で）

- ・めあて、まとめの明示が98%と改善された。今後は、振り返る活動の時間を効果的に取り入れたい。
- ・授業の中に、主体的に考え、話し合い、書くというサイクルを定着させる。特に教えあい、学びあいの場面を取り入れた授業づくりを推進する。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- ・学習方法をまとめた「学習の手引き」や「家庭学習チャレンジハンドブック」を活用する。
- ・週末課題プリントを全学年で取り組み、家庭学習習慣や基礎学力のより一層の向上を図る。
- ・定期的に学習内容の点検を実施し、個々に応じた指導の充実を図り、復習する習慣を身に付けさせる。